

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 2 月 25 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470203625		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	西広島グループホーム(ユニット名:なごみの家)		
所在地	広島県広島市西区田方二丁目16-45 (電話)082-274-1600		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470203625&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療施設(病院、ホスピス等)、福祉施設(老人保健施設、デイケア等)複合施設内に併設された施設です。設備や看護体制は病院との密接な連携が取られ利用者様、家族様の安心安全な支えとなっています。</p> <p>法人内外の研修に積極的に参加し、部署内研修や資料の回覧等で全スタッフに周知しています。</p> <p>運営推進会議には毎回多数の家族様に参加頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>母体が医療法人であり、法人全体としての理念と基本方針が定められている。それに伴いホーム独自の理念を持ちながら、密接な医療連携が取られ利用者ご本人、ご家族が安心・安全な支援を受けることが出来る。法人内には、拘束廃止委員会、安全対策委員会、感染対策委員会など各種の委員会があり職員はその委員会で研修するとともに外部研修にも積極的に参加している。医療法人施設の5階部分にホームは広く配置され、複合施設の特徴を生かし各施設の経験が交流され支援全体にゆとりがある。職員の「ご本人が毎日穏やかに暮らし、ご家族が預けて良かったと思われる介護をしたい」この気持ちが最も貴重な支援となっている。</p>

西広島グループホーム(ユニット名:なごみの家)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・基本方針の記載してあるカードをスタッフ全員に配布している。またホーム内にも掲示している。	理念・基本方針の記載してあるカードをスタッフ全員が常に携帯するとともに、ホーム内にも掲示し実行に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	町内会議と町内会、老人会の行事に参加している。また地域の方ホームの食事会に参加してもらっている。地域の小学校との交流会も行っている。	町内会、老人会の行事に参加するほか、保育園児のひな祭り訪問、小学校6年生による演劇公演、中学生・高校生の職場体験の受け入れなど多様に様々な交流を重ね地域に密着している。	個々の入居者が町内会の会員となり、敬老会には個人個人として招待される等地域に親しく受け入れられる支援をされていることは特記したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー - 登録をしたスタッフがあり、地域より依頼があれば活動する準備をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では現状の報告をし、そこで出た意見をスタッフ全員にミーティング等で報告、検討しサービスの向上に努めている。	運営推進会議はなごみ1・2が共同して開催する。町内会長、老人会長、包括支援センター、なごみ1の家族、なごみ2の家族、管理者(医師)、ホーム長が参加する。期間中のインシデント、アクシデント、入居者の状況、行事などを報告し、参加者の助言や意見を伺いホームの運営に生かしている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括センターに運営推進会議やホームの食事会に参加してもらっている。	地域包括支援センターを通じ市とも密接に連携をとるようにしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠せず自由に出入りできるようにしている。利用者様が出て行かれた時にはなごみ「1」「2」のスタッフで連携し見守りを行っている。	身体拘束の対応について運営規定で定めており、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動制限は行っていない。夜間を除き玄関の鍵は出来るだけ掛けないようにしている。時にはなごみ1と2を行き来する利用者もあるが、引き留めないで後ろから見守りするようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修で学んだスタッフが部署内研修を行い、全スタッフの意識を高めている。		

西広島グループホーム(ユニット名:なごみの家)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度を利用されている方がおられる。資料等で学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には需要事項説明書等を詳しく説明し、解約時には必要に応じて他施設等の紹介を行い、理解・納得が得られるようにしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、または年1回の満足度アンケートで意見をいただき、外部への連絡が必要なものは連絡し連携をとっている。	運営推進会議での意見、面会時やアンケート調査による要望を運営に生かすようにしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの場やその都度意見交換をしている。	管理者と職員が共に参加する会議、ミーティングを行っており職員は自由に意見を述べ提案することが出来る。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	得意分野を部署内の担当とし、やりがいをもって働いている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフのケアの力量に応じた法人内外の研修情報を提供し、参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他グループホームとの部会に参加し、情報交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	本人の思いを傾聴し、信頼関係を早く築けるよう努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	相談の段階からサービス利用開始後も疑問点等があれば気軽に問い合わせてもらっている。またスタッフからも積極的に声をかけ、意見等聞けるよう努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	利用者様の情報をあらかじめスタッフ間で共有し、必要としている支援ができるよう努めている。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	利用者様の感情を受けとめ、共感し、理解し合えるよう努めている。		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	行事や会議を通して、共に楽しみ、考えあう関係を築いている。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	外泊や旅行、知人を訪ねたり墓参り行ったりなど、日常生活の中で大切な人や思い出を忘れないようにして貰っている。	外泊や墓参、日常の面会のほか、家族も参加されるバザーをしたり、ホームの行事を伝える新聞を発行し家族とのつながりを大切にしている。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者様同士が同じ作業をしたり、食堂の席での会話にスタッフが介入する等で良い関係が築けるように支援している。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	契約終了した方を訪問して様子を伺ったり、家族様に連絡をとることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にコミュニケーション、表情の観察を行い、意向の把握に努めている。	お一人ひとり毎日症状が違い、1日のうちでも波のある方もあるが、安全でご本人が嫌でない介護を心掛け穏やかに楽しく過ごしていただく為、申し送りノート等で様子を職員間で共有して支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談の段階で情報を収集し、それをもとに利用者様の得意なことをしてもらい、その時の様子を観察しその後のケアに生かしている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の様子をカルテやケアプラン実施表に記入し、スタッフ間で共有している。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	概ね六ヶ月に一度行うカンファレンスには家族様に参加していただき、意見を反映するようにしている。	ご本人の思いをより深く理解するため、担当制をとっている。介護計画はチーフと担当者が相談しながら提案するが、カンファレンスには、ご家族に参加して頂き意見を反映するようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にカルテやケアプランに基づいた一日の行動記録表があり、毎日スタッフが目を通すことで共有し、介護計画は必要に応じて見直しを行っている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ホーム内に無いサービスの利用希望があれば検討し、なるべく希望に添えるように取り組んでいる。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの受け入れや、地域の小、中学校との交流は毎年行っている。			
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在全利用者様の主治医は併設医療機関の医師であるが、必要に応じてかかりつけ医に受診できるよう柔軟に対応している。	併設医療機関の医師が主治医のかたが多いが、必要に応じてかかりつけ医に受診できるよう柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の状態に異変があった時には、ホーム内または併設医療機関の看護師に相談、報告し適切な対応を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまでの実績でもそのようにしてきている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際にも説明し、なるべく早い段階から家族様を含む関係者で話し合い、内容を書面に残している。	入居の際にも説明し、なるべく早い段階から家族様を含む関係者で話し合い、内容を書面に残している。ご家族様の希望で昨年ホームで看取りも経験した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修に参加し身につけている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の消防訓練や、部署内研修を行い学んでいる。参加できなかったスタッフには、個別に伝えている。	年2回消防署と合同で避難訓練を実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフ一人ひとりが常に意識し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	居室のベッドの位置なども外部よりの視線に配慮され利用者の希望を優先しておかれている。プライバシーの保護について研修し、お一人ひとりの人格を尊重した優しい言葉で対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションをとり、思いをくみ取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り利用者様の個々のペースで希望に添うように過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理・美容があり、それを利用している方が多いが、好みで外の美容院に行かれる方もある。また、利用者様のご希望により化粧などの支援をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り利用者様と共に調理、片付けを行っている。役割も自然と決まり、進んで行う方もいる。	最近が高齢化が進み、買い物など一緒に行ける方が少なくなったので宅配を活用している。栄養のバランスを考えながら季節の料理をしたりお誕生会など変化も楽しめるよう献立を工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量を記録し、排泄の状況をみながら支援し、一人ひとりの好みや習慣を尊重しながら対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、本人が難しい部分は介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、早めの声かけ誘導を心掛け、なるべくトイレで排泄できるように努めている。	おひとりひとりの排泄パターンを記録し早めに声かけし、なるべくトイレで排泄できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物には特に気を配り、身体を動かす支援を行い、なるべく自然排便できるように取り組んでいる。また、下剤で調整も行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間や曜日を決めず、体調や気分に応じて対応している。	最低、週2回は入浴できるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活パターンを把握し、またその時の体調をみて安眠、休息できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の用法、用量等を理解し、服薬確認も行っている。また、症状の変化には常に気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割,楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割,嗜好品,楽しみごと,気分転換等の支援をしている。	利用者様の個性や特技を重視し、無理のない範囲で楽しみながら活動してもらっている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	併設施設にいる知人や友人に会いに行ったり、屋上へ外気浴に行ける支援をしている。また、利用者様の帰宅願望がある時には、家族様に伝え外泊される方もある。	併設施設の友人や知人を訪問したり、納涼会や食事会、お花見、紅葉狩りなどに出かけたりしている。	グループホームとしては比較的外出支援に重点を置かれ実行されているが、今後も一層利用者の喜ばれる外出支援をしたいとの方針が述べられた。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を預かっており、希望があれば職員が一緒に買い物に行っている。お金を自己管理しておられる方もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には利用者様と同行し電話をかけに行っている。手紙を書く支援も行っている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の行事にあった飾りや植物を置いている。月に二回華道クラブで利用者様が生けた季節の花を居室に飾っている。	広々とした共用の空間があり、ゆったりしたソファが置かれ自由に利用できる。観葉植物、ミニ神社(職員が作成した精巧な模型)が飾られ、華道クラブや習字クラブの作品も展示されている。窓外の景色も良い。	共用の居室は十分な広さがあるので、行事のない時など、利用者がお互いにお話など出来るような支援を期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や食堂の空間に椅子やソファを設置し自由に利用してもらっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様の希望を取り入れた自宅に近い環境で、かつ安全に過ごしてもらえるようにしている。	自室で手芸をされる方もあり、自作のPATCHワーク等の作品を飾られている。家族の写真を飾ったり、自宅で使用していたものを持ち込み家庭的な雰囲気になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下や食堂には十分なスペースがあり、段差もほとんど無く、安心できる環境である。また居室やトイレ等迷いやすい場所には分かりやすい表示するなど工夫している。		

西広島グループホーム(ユニット名:なごみの家)

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

西広島グループホーム(ユニット名:なごみの家)

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 西広島グループホーム
作成日 平成 23年4月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	外部(3)	運営推進会議に地域の方は町内会長、老人会長のみ毎回出席されている。	消防署の方やご近所の住民の方も参加できるようにしたい。	会議や行事の案内をしていきたい。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。